

ライシテからみるフランス美術 —信仰の光と理性の光

Laïcité et Art français : lumières de la foi et de la raison



①モーリス・ドニ《聖母月》1907年 ヤマザキマザック美術館

2026年1月17日〔土〕から3月22日〔日〕まで

三重県立美術館 Mie Prefectural Art Museum

「ライシテ」の変遷とともにたどる、もうひとつのフランス近代美術史

「ライシテ」とは、国家が宗教から自律し、人々に信仰の自由や精神的平等を保障する制度、そしてそれを支える思想のことです。フランス共和国の根幹をなす概念ですが、異なる宗教を信じる／信じない人々の共生のための理念から、政治権力と宗教の厳格な分離に至るまで、ライシテは複数の顔を持ちます。

本展は、フランス近代美術にライシテという補助線を引き、新しい楽しみ方を提案するものです。18世紀末におこったフランス革命は、人間の理性に光を見出し、王政とカトリック教会による支配を否定して新たな秩序を築こうとしました。その後、カトリック国としての伝統を取り戻そうとする人々と、革命の理想を引き継いでライシテを推進しようとする人々の間で対立が起こります。美術もまた両者の争いの影響を受けながら、王侯貴族や教会の権力から離れ、それ自体で「聖性」を獲得していきました。本展では、フランス革命期から20世紀半ばまでのフランスの油彩画、版画、彫刻等約200点を紹介し、国内コレクションの珠玉の作品群に新しい光をあてます。

* 本展は宇都宮美術館と三重県立美術館の二会場巡回展です。



②リュック＝オリヴィエ・メルソン《エジプト逃避途上の休息》1880年
島根県立美術館

みどころ & おすすめのポイント

✓ 「新しい」展覧会

本展ではライシテ研究の第一人者である伊達聖伸氏を学術協力者に迎え、図録には論考も収録。フランス近代美術×宗教、美術×政治の先行研究はあるものの、美術×宗教×政治の展覧会は過去に類を見ないものです。宗教と政治にまたがる新たな視点「ライシテ」から、もうひとつのフランス近代美術史のストーリーを描く本展では、国内の美術館が所蔵する作品も、いつもと違った顔を見せてくれるはずです。

✓ 有名作家の作品から、知る人ぞ知る作家の作品まで大集合

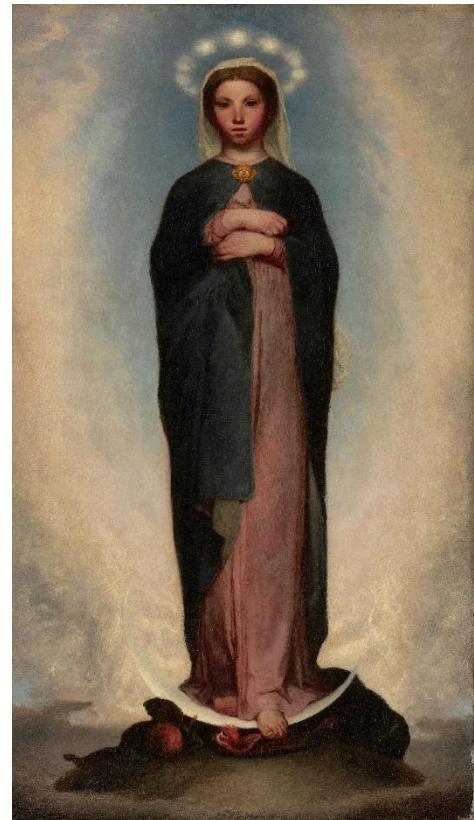
ウジェーヌ・ドラクロワ、ジャン=フランソワ・ミレー、オーギュスト・ロダン、クロード・モネ、パブロ・ピカソ、マルク・シャガールら、有名作家の作品が一堂に会するまたとない機会です。一方で、エティエンヌ・ディネ、ギュスターヴ・アンリ・ジョソ、ジュール・グランジュアンなど、知る人ぞ知る作家の作品もご紹介。多様な作風は、皆様の目を飽きさせないこと請け合いです。

✓ 尽きない話題

フランス革命期から第二次世界大戦後までをカバーする本展は、フランス革命をはじめ、ナポレオン、ドレフュス事件、第一次世界大戦等、美術にとどまらず文学、映画、演劇、漫画等のさまざまな作品の題材となった人物や出来事にも幅広く言及。美術以外の分野に関心がある方にも、おすすめしたい展覧会です。

✓ 今だから考えたい、 「ともに生きること」

三重県立美術館では2024年度から「美術館がつなぐ共生社会推進事業」（文化庁 Innovate MUSEUM事業）を実施中。誰もが自分らしく生きられる共生社会の推進をめざしています。ライシテは宗教共存の理念でもありますが、本展の周囲で起こるさまざまな人間ドラマは、今を生きる私たちにも「異なる属性や信条をもつ人たちが、ともに生きるためにはどうしたらよいか？」という問いに思いをめぐらせるきっかけを与えてくれるはずです。



③ジャン=フランソワ・ミレー
《無原罪の聖母》1858年
山梨県立美術館

関連プログラム

*手話通訳・要約筆記、その他支援をご希望の方は、2週間前までにご相談ください。

*追加・補足情報は、美術館ウェブサイトに掲載します。

1. 記念講演会「ライシテからみるフランス美術——展覧会をもっと楽しむために」

本展の学術協力者である伊達聖伸氏が、展覧会の見どころや、「ライシテ」とは何かについてお話しします。

日時：2月7日 [土] 午後2時から（90分程度／午後1時30分開場）

会場：三重県立美術館 講堂 *会場に直接お越しください。

講師：伊達聖伸（東京大学大学院総合文化研究科教授）

定員：140名（当日先着順）、参加無料

2. 担当学芸員によるスライド・トーク

本展と関わりの深いテーマについて、スクリーンに画像を投影しながらお話しします。

日時：2月15日 [日]、3月14日 [土] 午後2時から（40分程度／午後1時30分開場）

会場：三重県立美術館 講堂 *会場に直接お越しください。

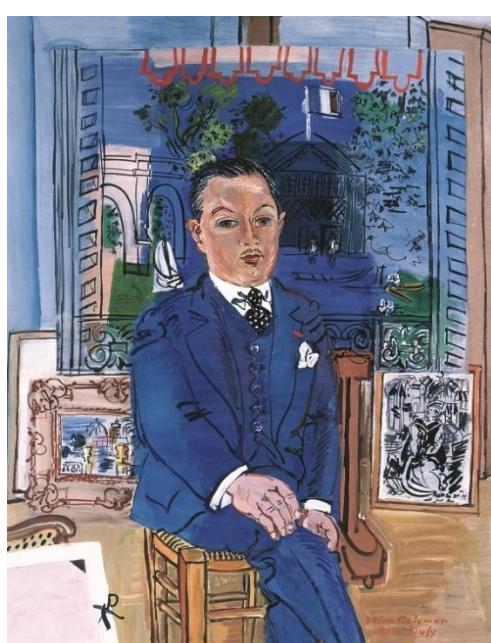
定員：140名（当日先着順）、参加無料

3. 担当学芸員によるギャラリー・トーク

展示室内で数点の作品を鑑賞するツアー。展示室に入るためチケット（観覧券）が必要です。

日時：1月24日 [土]、3月1日 [日] 午前11時から（30分程度）

会場：三重県立美術館 企画展示室 *展示室入口にお集まりください。



④ラウル・デュフィ
《ピエール・ジエスマール氏の肖像》
1932-1938年頃 宇都宮美術館

開催概要

会期：2026年1月17日〔土〕－3月22日〔日〕

開館時間：午前9時30分－午後5時（入場は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（ただし2月23日〔月・祝〕は開館）、2月24日〔火〕 *会期中、一部の作品の展示替を行います。

主催：三重県立美術館、中日新聞社

特別協力：町田市立国際版画美術館

企画協力：下野新聞社

学術協力：伊達聖伸（東京大学大学院総合文化研究科教授）

助成：公益財団法人 花王芸術・科学財団、公益財団法人岡田文化財団、公益財団法人三重県立美術館協力会（以上展覧会助成）、公益財団法人ポーラ美術振興財団（調査研究助成）



観覧料：一般1,000円（800）円、学生800（600）円、高校生以下無料

*（ ）内は前売および20名以上の団体割引料金

*この料金で、「美術館のコレクション」、柳原義達記念館もご覧いただけます。

*生徒、学生の方は生徒手帳、学生証等をご提示ください。

*障害者手帳等（アプリ含む）をお持ちの方および付き添いの方1名は観覧無料。

*教育活動の一環で県内学校（幼・小・中・高・特別支援）および相当施設が来館する場合、引率者も観覧無料（要申請）。

*毎月第3日曜の家庭の日（1月18日、2月15日、3月15日）は団体割引料金でご覧いただけます。

*主な前売券販売所：チケットぴあ、ファミリーマート、セブン-イレブンほか

広報用画像について

本プレスリリース掲載の①から④の画像を広報用に提供します。ご希望の方は下記注意事項をお読みの上、ご連絡ください。ご希望の図版データをお送りします。

- ・ 画像のご使用は、本展の広報目的の場合に限ります。本展覧会終了後は使用できません。
- ・ 画像への文字のせ、画像トリミング、比率変更、その他加工はご遠慮ください。
- ・ 掲載にあたっては、作家名、作品名、制作年、所蔵先を画像と一緒に記載してください。
- ・ ウェブサイトに掲載する場合は、コピーガード（右クリック不可）をかけてください。コピーガード対応ができない場合には、72ppi以下もしくは400×400pixel以下の解像度でご掲載ください。

お問い合わせ

三重県立美術館 学芸普及課 鈴村、橋本、坂本

〒514-0007 三重県津市大谷町11

TEL. 059-227-2100（代表）／FAX. 059-223-0570

E-mail: bijutsu2@pref.mie.lg.jp